公益社団法人 日本山岳会関西支部

関西支部報

2013年12月
No. 153

http://www.jackansai.com

三巨人・生誕の地を結ぶ線

重廣恒夫

藤木祭

昨年は台風で中止となった第24回藤木祭が、９月29日芦屋・大谷茶屋上の高座の滝前で盛大に執り行われました。今年は主催者を代表して挨拶をする番になっていましたので、どんな話をしようかと古い支部報を捲って見ました。というのも大先輩である藤木九三さんの著作を通じての知識はありますが、裏話的なものがあるのではないかと思ったからです。若干縁があるとすれば、藤木さん達が大正13年に設立されたロック・クライミング・クラブ（RCC）の後を引き継いで昭和38年に設立された第二次RCC（藤木さんが最高顧問に就任）の会員でしたので、昭和48年当時未登であったエベレスト南壁（南西壁）登山隊に参加した時に、報道隊員として参加されたご子息の高嶺さんと知り合ったぐらいです。しかも、登山隊の隊長はRCC創立メンバーの水野祥太郎さんでしたし、遠征前の準備では同じ創立メンバーの津田周二さんなどにも随分とお世話になりました。

挨拶では支部報16号に掲載されていた、藤木さんの「ご挨拶」と津田さんの「藤木さんのレリーフ建設について」のお話しをかいつまんでさせていただきました。また、『孤高の人』であった加藤文太郎さんもRCCのメンバーであり、加藤さんが当時で３千円もの「ヒマラヤ貯金」をしていた背景には、藤木さんの影響が大きいことと加藤さんの背中を追いかけた植村直己さんは同じ兵庫県但馬の生まれであり、藤木さんの生誕地福知山、植村さんの生誕地豊岡、加藤さんの生誕地浜坂を結ぶと１本の線に近く、ことに“粘り強い”但馬人気質を作り出した但馬の気候風土が与えた影響が少なからずあるのではないかという推測を披露しました。

話には出しませんでしたが、支部報92号に掲載された第10回藤木祭で話された大賀寿二さんの「藤木先生の思い出」は藤木さんの著作では垣間見ることのできないエピソード満載で、大賀さんの記憶力に驚嘆しました。

加藤文太郎さんのこと

加藤さんは私が生まれる11年前に厳冬の槍ヶ岳北鎌尾根で30歳の生涯を閉じられていたので、大正から昭和の初期に活躍した様子を知ったのは、「山と渓谷」に連載された新田次郎さんの『孤高の人』からですが、中学校２年の時に読んだモーリス・エルゾーグの『処女峰アン

目次

三巨人・生誕の地を結ぶ線　重廣恒夫…1
支部ルームの移転　辻　和雄…2
阿部和行さんを偲んで
限りのない旅を続けておられるだろう　安井康夫…3
クライマー支部長逝く　重廣恒夫…4
想い出　小寺佳美…4
平成25年度夏期懇談会
欠席者の便りから…5　藤井裕人…5
参加者名簿…6
関西支部と私
支部合同スキー山行「東山」の思い出　阪下悦子…7
楽しかった関西支部での3年間　西村政晃…7
支部山行報告
ゆるやか山行　北摂・京都北山を歩く　小林三喜男…8　18
ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる4　久保和恵…9
海外山行　重廣恒夫…10
関西支部県境縦走8　稲葉淳一…10
沢例会　茂木完治…12
ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる5…13
ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる6　中野峯子…13
「本山寺山森林づくりの会」作業報告　秦　泰夫…14
会務報告
第3回委員会議事録…15
新入会員・支部会友名簿…15
第24回　藤木祭報告…16
第24回（再）藤木祭　会計報告…16
自然保護全国集会報告…16
支部山行計画　14年1月～3月…17
自然保護行事　14年1月～3月…19
編集後記…20

ナプルナ』の影響を受けてヒマラヤへの夢を膨らませていた私にとっては格好の先達者でした。高校生になって単独登山に憧れ、早速まねをしたのが雪中ビバークと甘納豆でした。近郊の山ではありましたが、米軍放出のポンチョに包まり同じく放出のクッカーと携帯燃料を使って甘納豆を煮立て餅を入れて食べたりしていました。その後岩登りに傾注するようになると、加藤さんへの憧憬はワルテル･ボナッティの単独登攀へと移行しましたが、いずれも類まれなる精神力と体力の持ち主という共通点があったと思いました。

藤木さんがその著書『屋上登攀者』の単独登攀考想に述べられている「単独登攀者はあらゆる妥協を排除し、いわゆる普遍性と妥当性を忌む。故にその用うる箇々の登攀術は、個性に立脚する創作であり、常に新しき試練でもあるのだ。人若し、その技術を体系づけようとするならば、恐らく失敗に帰するであろう。何故ならば、彼らの一挙手一投足は、本能と個性の閃きであるから…」は、加藤さんやボナッティの「単独行」と思想を同じくするものかも知れません。

植村直己さんのこと

加藤さんは会社務めの社会人山岳会の所属でしたが、植村直己さんは大学山岳部出身の生涯冒険家でした。植村さんとは年は６歳しか離れていませんが、２度しか会ったことがありません。最初に会ったのは昭和47年でしょうか、翌年にエベレスト南壁登山を控え、都内で準備に忙しい日々を送っていました。作業後の宴会が２次会に移り、時計が24時を過ぎた頃、突然カメラマンの赤松さんが「ナオミ」の所に行こうと言い出して板橋のお宅に２人でお伺いしました。赤松さんは明治大学山岳部の先輩で、夜遅いにも拘わらず「酒だせ」「ツマミだせ」といいたい放題、そのとき植村さんは翌年のグリーンランド３千㎞犬ゾリ単独行に備えて「六分儀」のトレーニング中だったのですが、いやな顔一つせず応対をしていただきました。朝方、奥様の実家にお伺いし、奥様に挨拶をしてお開きとなりましたが、もし植村さんが尊命であったなら、いつも平身低頭しなければならない羽目になるところでした。

２度目は南極大陸横断を表明されてからです。都内にオープンした登山用品専門店の新店オープンのセレモニーでした。恐らくは植村さんの冒険を支援する広告代理店からの依頼だったのでしょうが、余り多くもない聴衆に対してもあの人なつこい明るい笑顔は全開でした。厳冬のマッキンリーの頂稜に消えてから既に19年の歳月が流れていますが、その抜群の人柄の良さと熱心さで多くの人達を魅了し、多くの人達に夢と希望を与え、同時に多くの仲間や友人たち、さらに日本国民の胸の中に植村さんは忘れ難い想い出を今に刻みつけているのではないでしょうか。

関西県境縦走

加藤文太郎さんは兵庫・鳥取・岡山県境の山々を「兵庫アルプス」と称して登っていました。後山＝兵庫御岳、三室山＝兵庫乗鞍、赤谷山＝兵庫槍、三ノ丸＝兵庫穂高、氷ノ山＝兵庫槍、鉢伏山＝兵庫大天井、青ヶ丸＝兵庫鷲羽、仏ノ尾＝兵庫白馬、大ズッコ＝兵庫立山などです。１月19日に瀬戸内海真尾鼻から歩き始めた「関西支部県境縦走」も、深い藪に悩まされながらも、10月に氷ノ山を越え11月には扇ヶ山を通過する予定です。瀬戸内海から日本海に向けての約220㎞の縦走は170㎞を踏破して終盤を迎えています。二人の偉大な登山家を生み育んだ但馬の山々はこれから冬を迎えます。加藤さんの跋渉した山々を若き日の植村直己さんが追いかけました。我われがこれから向かう稜線からは、２人がこよなく愛した雪の「蘇武岳」や但馬の山々を望まれることでしょう。加藤文太郎記念図書館のある浜坂に向けた縦走は雪に翻弄される行程となりそうです。

支部ルームの移転

80周年記念事業　ルーム移転担当　辻　和雄

支部ルームは、11月17日（日）に今里から東梅田に移転しました。すでに会員の皆様にはハガキにて連絡させていただいていますが、移転に至るまでの経緯と新ルームの概要を以下に記します。

＜現ルームの開設経緯と現状＞

現支部ルームは、大阪市西区靭本町に机だけがあったスポーツ会館から、12年前の2001年10月に「支部ルームを確保し、各種支部活動の使用と共に、サロンとして使用し、支部の活性化を図る」ため、大阪セルロイド会館に設置されました。先行して大阪府山岳連盟が入居し、隣室が空いていた事、大会議室があった事等が現在地を選んだ大きな理由でした。

設置当初は、委員の当番によって日中は常駐している体制をとりましたが、位置的な不便さから、その後は会

議がある時のみの利用となり、使用状況は芳しくありませんでした。

＜新ルームへの移転検討経緯＞

支部ルームの移転については、現在の「賃貸料」及び「広さ」を確保し、支部活動に便利であることを要件にして昨年の６月頃から非公式に検討を始めました。梅田近辺でも同等の物件がある事も解り、昨年の11月の委員会にて80周年記念事業の一環として進めることを決定しました。４月の評議員会に諮った後、支部総会にて「支部ルームの移転」を提案し、移転先については「梅田近辺で現在の賃貸料､及び広さと同等のルーム」があれば、委員会に一任していただく事を承認いただきました。

その後精力的に検討を重ねていたところ、７月末に阪急梅田駅から徒歩８分、地下鉄谷町線「中崎町」駅の直ぐの「梅田東ビル」に空きができた事を知りました。この物件は、現在の大阪セルロイド会館より「賃貸料が安く」かつ「１坪ほど広く」、検討していた条件に適うものと判断し、主な委員による現地確認を行いました。その後詳細確認を行った上で９月委員会に諮り、移転実施の了解を得て、ただちに（優良物件は直ぐに契約される事から）契約締結手続きに入りました。

＜新ルームの概要＞

１．所 在 地　大阪市北区中崎西１丁目４番22号
梅田東ビル３階　304号室

２．アクセス　阪急「梅田」駅から徒歩８分
地下鉄谷町線「中崎町」駅から徒歩１分
新年会の開催場所「大東洋」から東へ約200m

３．広　　さ　6.64坪（大阪セルロイド会館は公称６坪だが実質は狭く実測で１坪分の差がある）

４．移転時期　11月17日（日）

５．新ルームに関しての問合先
辻　和雄　携帯電話090-6757-0323

阿部和行さんを偲んで

限りのない旅を続けておられるだろう

安井　康夫（会員番号8494）

阿部和行さんが亡くなられる前夜、阿部さんの夢を見た。大きなキャンパスに絵を描いて笑っておられた。気になったので愛媛の出張を終えてから会いに行こうと思っていたが､出張先で訃報が入るとは思いもしなかった。昨年の11月、仕事で大阪に来たついでに施設をお伺いしていろいろとお話しをした。「スキーは行っている？」、「いっぱい行っていますよ」､「スキーを勧めたばっかりにね…」と､お元気な姿で『山岳』を手にしておられた。今年の７月、大阪へ転勤した私は家内と一緒に阿部さんに会いに行った。横になって少し弱っておられたようだが、話を投げかけるとにっこりとされていた。

阿部さんとの出会いは1978年。関西支部に移籍して、毎月のように靱公園のルームをお邪魔した。阿部さんのご自宅と社宅が近かったのでお付き合いが始まった｡「岩だけじゃないよ、関西ではスキーをしないとだめだよ」と言われて、がむしゃらにスキーを学んだ。その後大分

阿部和行（あべ・かずゆき）

1926（大正15）年、神戸市に生まれる。愛媛農林専門学校（現愛媛大学農学部）を1948年に卒業し、大阪通商産業局に勤務。JIS、新技術開発の業務に携わる。鹿島槍北壁直接尾根積雪期初登攀（1956）をはじめ剱岳八ツ峰東面、爺ヶ岳東面の未開拓ルートを拓き､黒部奥鐘西壁の紫岳会ルート開拓を推進する。その間、日本山岳会入会（1957；会員番号4498番）、紫岳会創設（1957）に参加。1967年大阪通商産業局を退職し、㈱田淵製作所（現㈱タブチ）に入社。1971年には大阪府山岳連盟西ネパール・カンジェロバ山群・ツェルポ・カン峰登山隊の隊長として参加するほか、1976年にはランタン・ヒマールに入っている。1983年㈱田淵製作所常務取締役。1986年日本山岳会関西支部支部長に就任。関西支部長としては2004年に西チベット学術登山隊総隊長として尽力。2007年日本山岳会永年会員。2013年11月11日逝去。
登山関係の著書として東京中日新聞出版局刊『岩登り技術』（1964）、東京新聞出版局刊「新・岩登り技術」（1971）、水道産業新聞社刊「水と神話の国々：アジアの片隅からヨーロッパの街角まで蛇口の源流記」（1985）がある。

に転勤して再び大阪に戻ってくると、パラグライダーをやっていた私に阿部さんは「やってみたい」と言うので、私たちは毎週のように石川県の獅子吼高原へ出かけた。一緒に沢登りや山スキーを何回か楽しんだが、何よりも毎週のパラグライダー通いが楽しかった。ライセンスを取得されると「山から飛びたいよね」と言って、立山、大山の山頂からも飛んだ。泊まりはいつもテント。コッヘルに白菜と豚肉を放り込み、塩こしょうで味付けてお酒を酌み交わす。実に楽しかった。意外と山の話は少なかった。口数が少ない方で、「仕事はどう？」、「メールは使っている？」などと単発な会話だったが、ご自身を取り巻く新しい出来事と何か照らし合わせておられたのだろうか、そんな感じだった。

非常に好奇心の強い方で、スケッチはむろん自転車には相当のめり込んでおられた。カヌーもお好きだった阿部さんは日本の川だけでなく、ドナウ河（1994年）、ライン河（1999年～2001年）を自転車で辿っておられる。

自費出版された『Die Reise an Rhein』の最後に、「ラインの旅がここに終わった。続きの見えない終わりは寂しいものだ。」とある。亡くなられても、天国で限りない旅を続けておられるのではないだろうか、きっとそうだ。阿部さん、ありがとうございました、合掌。

クライマー支部長逝く

重廣　恒夫（会員番号7931）

11月11日、誤嚥性肺炎で前支部長の阿部和行さんが亡くなられました。ここ２年ほどは足が不自由になっておられましたが、唐突な旅立ちにただ驚くばかりです。

私は1975年の入会ですが関西支部の所属になるのはずっと後のことで、阿部さんとご一緒に登山や支部の活動をしたことはありませんでした。それでも阿部さんの名前は若い頃から知り尊敬していました。なぜなら阿部さんは1957（昭和32年）年に紫岳会を設立され活発な登攀活動をされていたからです。早くから日本最大の岩壁である黒部奥鐘西壁に注目し、紫岳会ルート（1961・63年8月試登）の初登攀（1963年10月）の推進力となり、石鎚山北壁や鹿島槍ヶ岳北面の開拓など精力的な活動を行っておられました。私自身も大いに刺激を受けて、学生時代は奥鐘西壁に通い続けていました。また、阿部さんの書かれた『岩登り技術』『新岩登り技術』は高校・大学時代の愛読書でもありました。特に『新岩登り技術』に記載されたワルテル・ボナッティのマッターホルン北壁冬季単独登攀の装備をノートに書き写して、積雪期の岩壁の継続登攀や単独登攀の参考にしたものです。

そのボナッティさんは1998年（平成10年）に来日され大阪にも来られました。阿部さんも往年のクライマーとして意気投合され、楽しい時間を過ごされたのではないかと思います。この時、私は大阪・毎日新聞オーバルホールでおこなわれた講演会のインタビュアーとして参加しました。阿部さんに懇願されて引き受けたのですが、今思い出しても冷や汗ものでした。

阿部さんは国内登山のみならず早くからヒマラヤの文献や地図を入手され研究を続けておられ、手がけられたネパールヒマラヤの概念図の作成でヒマラヤをめざす登山家に刺激を与えるとともに、自らも大阪府山岳連盟ネパールヒマラヤ登山隊の隊長として参加され西北ネパールカンジロバ山群のツェルポ･カン（6556m）初登頂の指揮をされています。その情熱は衰えることなく、関西支部設立70周年記念事業の一つとして行われた「日本山岳会関西支部西チベット学術登山隊2004」の総隊長になられ、隊の派遣に尽力された結果としてパチュムハム峰（6529m）の初登頂とギャンゾンカン岩峰（6080m）の南壁の初登攀をものにすることができました。

第４次登山ブームと言われる昨今、老若男女が登山を楽しむ時代になって登山の形態も随分と様変わりしています。しかし、阿部さんが活躍された時代のパイオニアワーク的な登山は、これからも我々の指標となるであろうと思います。

ご冥福をお祈り申し上げます。

想い出

小寺　佳美（会員番号9994）

阿部さんが亡くなられたとの電話をいただいた。何も知らなかった私には突然の死であった。

その時思い出したのは、伊吹山でのスキーだった。手にした古い山のノートにこの山の事は何も書いていない。リフトを降りて雪の山を登る、その登っている雪の山肌が目の前に浮かぶ､岩登りしているのではないので、雪の山肌が目の前というのはおかしいが、急な登りだったということか。やれやれと頂稜に着いて、左の方へ滑り、そして西稜線の下り、コブのあるカリカリだが仕方なし。無事下りやがてスキー場近くの雪面となった。お葬式で、この伊吹山のスキーの事を想っては、ありがとうとお礼を心の中で言っていた。

古いノート、62年のをみると、谷歩き・口の深谷のことが書いてあった。谷のことはまったく覚えていなかった。谷歩きもしていたのかと。所属していた近畿山岳愛好会で、４月に六甲の都加谷の例会で「小寺さん岩登り

したらどうや」と言ってくださった人がいて62年５月から谷歩きにも参加している。また、神戸の岩登りのゲレンデへも２回ほど行った。和泉山脈のクレン谷、サカモギ谷、大峰の上多古川、比良の奥の深谷、ヘク谷など。９月20日は沢じまいの上山谷など12回の谷歩きをしている。

この年９月15日には阿部さんと口の深谷に行っている。坊村より入る。透きとおった水、大きな岩が河原にあって、この岩の大きさ、水の透明さが金剛山や和泉山系のとは違っていた。すぐの滝、奥まったところで、先に家族連れが取り付いていた。次は左側へ捲く。なかなかの悪い捲きである。高く、高く上がって山崩れのところがあって、ここでやっとザイルを取り出す。そして次は滝だ。たしかに12m位の滝だったと思う。左側を登る。あとから来た二人の男性はあっさり捲いていた。阿部さんが登られる。途中のボルトにカラビナとシュリンゲを掛けてザイルもビレーして上に抜けられた。滝口に私ひとり残る。少々心細い。“行きます”との合図で取り付く。まあ私でも登れる滝であった。“これ12m位ですか”“知らん！！”。ルート図を出して見られないし“12m位ですね”に、“20mも30mもあってほしいのだろう”と仰る。次の休憩では早いけれどお昼にした。しばらく行くと斜瀑で、滑りやすく悪い滝を阿部さんが登っていって見えなくなった。“ちょっと待って”。“ハイ”。しばらくして“いいよ”との声。登っていくと岩に座っておられた。そこからが少し悪くなり、“右手上方にある尖った岩を捉まえたか”と仰る。二、三回でやっと尖った岩を捉まえ、それがうまく効いてくれて体が上に上がる。登ると小さな道が横切っていた。へつりをして中央の岩に飛び移って進むと滝が出てきた。左を登るも上部がナメでつるつるだった。やがて谷も終わり中峠への道、右手へ登り、急な下りで出合った奥の深谷で休憩する。牛コバを経由して坊村に戻った。車が渋滞していた京都駅で阿部さんと別れた。

ここまで書いて、悠々と谷を登っているようですが、「恥ずかしくて人に言えないガムシャラな一生懸命の山、谷あるきであった」と最後に書いています。そして…

お葬式でアルバムを見せていただきました。チラッと見ただけですが、岩と雪、そして谷もありました。大きな岩の深い谷、岩に取り付いておられる写真も。それらを見て、私との山は幼稚園児を連れての山だったと思いました。

ご冥福をお祈りいたします。

平成25年度 夏期懇談会報告

藤井裕人

8月29日、大阪凌霜クラブで夏期懇談会が開催された。

前半は茂木講師による「世界の沢を巡って」と題した講演会で会員40名、会員外（登山教室参加者や一般登山者）10名合わせ総勢50名が集った。普段は南北アルプス、上信越方面中心のトレッキング山行を楽しむ私にとっても沢という世界は未知に近いカテゴリーであり、記録写真を用いた臨場感豊かな当時の活動報告は、台湾、韓国、パプアニューギニアやニュージーランドほか各国の沢の多様性や、未踏のルートファンディングなどチャレンジングな活動内容を知る極めて貴重な時間となった。

後半は別室宴会場に移動して、親睦パーティが行われた。立食を楽しみながら、旧知の会員同士で各々の情報交換を兼ねた談笑に花が咲き、終始和やかなムードで時間は流れていった。

昨年の入会以降、仕事の多忙化で支部の活動になかなか参加出来ていなかった私にとっては、水谷委員、久保委員、山内委員、斧田委員ほか沢山の諸先輩から支部の様々な運営について教えて頂き、関西支部のハートフルで逞しい結束力や円満円滑な連携の良さを実感しつつ、今後の支部の諸活動への積極参加を改めて強く意識した大変有意義な一日となった。

欠席者の便りから

今夏、白山三ノ峰、チブリ尾根の花を楽しみました。山荘生活は忙しく、庭の手入れや野菜作りをしています。山は涼しく、都会に下山する気持ちが持てません。

井上達男

最近は体調不良で全く山行はありません。唯、年一回の徳島大学学士山岳会は我が家で開いています。

大島秀夫

昨夏、永年の夢であったK2を見るためバルトロ氷河のトレッキングに出かけた。40数年前は登攀の対象の山として憧れていたが、今はその姿にであうだけでいい。荒

涼としたコンコルド広場に到着したその日、やがて雲に隠れていた巨大なピラミッドの雄姿が我々の目の前にバッチリと現れた。その瞬間、これまでの苦労は消え去り満足のみが体内に満ち溢れた。 **川田哲二**

いつもお世話になります。3年前の脳梗塞に倒れて以来、何回かの入退院、いろいろあって今では建物内はゆっくり歩けますが、外出はムリとなりました。皆さまによろしく。 **川戸昭三**

いつもお世話様です。夏休みは来客が多く、予定が立たず返信遅くなりました。次回を楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。 **黒岩敦子**

真夏のネザサ草原の中にキキョウが一輪咲いていました。ネザサ刈りを始めて6年、新しい再生がアチコチに見られます。ハイキング道沿いは陽当たりが良いのか個体数が多い。唯、目印を付けると心無い輩に根ごと持ち去られるのが残念なことです。秋の花のシーズンが楽しみです。8月29日は、ブナを植える会の理事会と重なるため欠席します。又、東お多福山でお会いしましょう。 **桑田　結**

これからは「ゆるやか山行」に参加させてもらいたく思っています。 **小林　貢**

ご盛会を祈念いたします。 **杉本秋之介**

新入会員(復活)として本来ならば出席せねばならないところ出張となっており、誠に申しわけございません。どうぞよろしくお取りはからいくださいますようお願い申し上げます。 **高木　稔**

残念ながら欠席いたします。実は何の前触れもなく突然「肺がん」の宣告を受けて驚きました。早速抗がん剤の投与を受けました。幸いクスリとの相性が良かったのでしょう45日の入院を経て退院。あと通院治療を受けています。盛夏の間は養生に努めてできれば秋口には再起できればと願っています。ハチ高原の山小屋運営も再開したいと思います。 **高田　誠**

老いと共に膝が痛く歩行困難となりました。申し訳ありませんが欠席いたします。 **中部博之**

会報151号を拝見してその充実ぶりに驚かされました。編集の皆さんのご努力に感謝ですが、こんなご苦労が今後、毎号続けられるだろうかと、いらぬ心配をしています。折角なら懇談会の案内そのものも横書きに変えていただければ、もっと書き易かったのにと思います。支部報を楽しみに待っています。 **平野征人**

欠席ばかりで申しわけございません。73歳になりましたが元気に山に行ってます。自宅から近くで行われる藤木祭には毎回出席させていただいています。関西支部の益々の発展を祈ります。 **町田武雄**

HP・ブログに関してご意見ご要望がありましたらどしどしお寄せください。ブログへのコメントもどしどしご投稿をお願いします。 **松波幹夫**

オッ！！変わった。A4版、横組みのフレッシュな「関西支部報」を手にとってとてもいい印象を持ちました。重廣支部長の巻頭文も新しい開放にふさわしい中身で顔がほころびました。敬意を表します。ご盛会を祈ります。 **村田悌章**

会に加入させていただきながら例会にも集会にも参加することなく数年が経ってしまいました。今年は70歳になり、山行も終末期を迎えています。残りの人生は数年前から始めた「韓国・白頭大幹の峰々」を一座でも多く沢筋から登りたいと思っています。例会では、足下もおぼつかない身ですが、「ゆるやか山行」に参加させていただきたいと願っています。よろしくお願いします。 **山崎　詮**

平成25年度夏期懇談会参加者名簿

浅野初子　新井浩　新本政子　魚津清和　浦上芳啓
大津陸郎　斧田一陽　金井健二　金井良碩　清瀬祐司
久保和恵　黒田記代　小島一喜　小寺佳美　薦田佳一
佐野加代子　重廣恒夫　辻和雄　戸島泰三郎　中島隆
長島泰博　中谷絹子　西尾俊子　野口恒雄　橋本圭之輔
秦康夫　菱田克彦　平林克敏　廣瀬健三　藤井裕人
前田正彰　松村文子　水谷透　宮川流太郎　宗實二郎
宗實慶子　村田かおり　茂木完治　安井康夫　山内幸子
計40名

関 西 支 部 と 私

支部合同スキー山行「東山」の思い出 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 阪下悦子

四季を通じて皆さんと山行やスキーにご一緒させていただいている中で、支部合同スキー山行の東山には忘れがたい思い出がある。

81年に支部入会後、故久保三朗氏という大先輩に出会い、山にスキーに忙しくなった。現在、合同は五支部で実施されているが、以前は京都と関西の二支部が毎年交代で担当していた。この合同スキー山行の基礎を作られたのが久保氏で、山域の選定や連絡等、すべてを受け持たれたが、下見の時には車の要請があり、久保氏と主人、私の３名で出かけた。

99年春に計画された東山へは、前年を含め４回の下見、内１回は夏だった。元々、東山は林道歩きが長い。短縮できるコースとして登り尾道があることを久保氏も、私たちも知ってはいたが下見が間に合わず、中国自然歩道と林道沖ノ山線を使って実施の予定が雨で中止となった。その翌週に登り尾道の偵察に主人と入山、吉川集落から谷沿いに入り複雑な地形に難渋の末、林道に登り着いた。しかし尾根を間違えたらしく、余りにも斜度がきつく下降が危険で、この時は林道で帰った。再び２週間後にトライ。登り尾道らしい感触を得て要所に印を付け久保氏に報告した。

その年の８月、久保氏担当の皆込谷山行時に登り尾道の近くに来ているので、コースの再確認と翌年のためのルート工作として下草刈りや雑木取り除きの作業は炎天下で暑かった。この辺りの事情は「支部報」No.96皆込谷に詳しく報告されている。

翌年春(2000年)の合同スキー参加者24名は、この登り尾道を登った。ヤブを刈った効果はわからなかったが、多勢で登ればルートも出来ていた。皆込谷のコルから主稜を登って東山頂上へ。快晴で眺望も抜群だった。下りは林道組と登り尾道組に分かれた。いつもシールを外していざ滑降という心ときめくひとときだが、この時はそうではなかった。多勢で登ったのに雪面からヤブが顔を出し、挟まれたり、しごかれたり、転倒したりで結構時間がかかった。

元々ヤブ漕ぎスキーが苦にならない人は楽しんで滑り、そうでなかった方も関西特有のヤブを経験され、下り着いた時には全員が満ち足りたいい表情をされていたのを憶えている。前年雨で中止になったおかげで、何度も下見をしての本番、東山の合同スキー山行が成功して、この上ない喜びであったし、忘れられない思い出として今でも熱い想いが甦ってくる。

この頃から関西では適当なエリアが少なくなり、福井支部の加入で奥越の山域へ、さらに岐阜、富山支部が加わりエリアも拡大、交流も盛んになり現在に至っている。合同スキー山行も回を重ねること27回、それぞれに思い出が多く、これからも楽しみにしている。

（会員番号9013　2013/4/18受）

※阪下悦子さんは 11 月 30 日に亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。

楽しかった関西支部での３年間 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 西村政晃

関西支部の活動に参加

私は1992年春から３年間関西支部の活動に参加させていただき、とても楽しく過ごさせていただきました。勤務先の関西営業本部が豊中にあり、1992年４月、同本部へ転勤を命ぜられ単身赴任をいたしました。会社の仲間以外は大阪に知己は少なかったのですが、たまたま故今西壽雄さんが当会の会長を務められた２期目に、財務担当の理事を仰せつかったご縁で、私の転勤を知り今西さんから「君も大阪に来たんだからぜひ関西支部へいらっしゃい」とお声をかけていただきました。

さっそく関西支部の活動に仲間入りをさせていただき、大学・会社生活を通じて32年間関東暮らしのため、一度も登ったことのなかった近畿地方の山々（伊吹山やら高見山やら…）の日帰り登山に時々ご一緒させていただきました。年の初めには盛大な新年会、年の末には高石市羽衣にあった今西さんのご自宅で餅つき大会が開かれ、みんなで杵で搗いたり、餅を丸めたり、恒例のうれしい行事でした。今西さんが楽しそうに、自ら手に水をつけて餅をこねていただいたことを懐かしく思い出します。

1994年10月には関西支部で担当した全国支部懇談会が鉢伏高原で開催され、125名の参加があり、15日懇談会、翌日、名峰氷ノ山（1,510m）登山を楽しんだのも良い思い出です。

設立80周年に向けますますの飛躍をお祈り致します

私は関西支部でお世話になった後、東京へ戻って18年が経ちますが、「支部報」などで、近年、重廣恒夫支部長のもと、きわめて活発な支部活動が実践されていることを知り敬服しております。

毎月の数多くの支部山行、登山教室（初級、中級、上級）の開催、「近畿分水嶺踏査」（昨年12月完了）、今年１月から設立80周年に向けて「関西支部県境縦走」（延べ約700㎞）をスタートされました。自然保護活動も「本山寺森林づくりの会」や「東おたふく山の保全活動」などに注力されています。総務をはじめすべての委員会の活動もきっと盛んと思います。

再来年の支部創立80周年に向けては「80年史」の刊行をはじめ盛りだくさんの事業が計画されているようです。伝統ある関西支部が設立80周年という大きな節目を捉えさらなる飛躍をはかられますよう心からお祈り申し上げます。　（会員番号7468　前副会長　2013/3/31受）

支部山行報告

支部山行12-56　ゆるやか山行
北摂･京都北山を歩く18

大原金毘羅山、翠黛山、焼杉山を歩く

小林三喜男

12月6日（木）晴

京都地下鉄国際会館駅から京都バス大原行きのバスに乗り、戸寺バス停で下車。バス停前物産館の駐車場に全員集合。

初冬で底冷えしているが快晴で、絶好の山歩き日となった。バス停からスタートして元井出橋を渡り、大原の里山を眺めながら平坦なアスファルト道を進むと、随所にある京都一周トレイルの標識に沿って江文神社に到着。山裾の神社らしく境内は杉の大木に囲まれ、周囲に厳かな雰囲気をもたらしてくれる広い境内で、ストレッチ、コース説明、初参加の野村さんの紹介をうける。

木漏れ日がさす中､きつい石段を登り分岐標識に到達。整備された石段であるが急な登りが続く。喘ぎながら登っていると右側の岩壁にむつみ地蔵尊があり、般若心経を唱えている清楚なお婆さんに出会った。毎日、琴平新宮社にお参りしているとの事で､声が大きく張りが有り、82才とは思えないほど元気な方で､その方の元気を貰い、琴平新宮社に到着し小休止。

琴平新宮社前にて　写真提供：中島隆

本格的な山道に入ったが道が整備されており心地よい。ほどなくＹ懸ゲレンデ分岐に到達、ロッククライミングの表示板が掲げてあるが、ひたすら頂上を目指す。分岐付近の展望所からは比叡山や岩倉の集落が望め、しばし眼下の眺望を見入る。金毘羅大権現の鳥居を過ぎ奥の院、更に道なりに進むと、東峰に三壺大神と刻んだ石柱が立っていた。古代、大原の里人が山頂に登り、降雨祈願した名残なのかと想像逞しくする場所だ。更に山頂付近の巨大な岩にハングル文字・神代文字なのか判らないが石碑あり。一旦下って登り金毘羅山（572m）に到達。山頂は三角点と「大原10名山」の標識が有った。急な縦走路を下り、登りを二度程繰り返し、適度の運動で空腹になった頃、翠黛山（577m）に到着。待望の昼食を取る。気温は低いが風がないので助かった。翠黛山は、かつて寂光院に隠棲された建礼門院が仏様にお供えの花を摘みにこられ、山頂で遥かに見える都の暮らしを、思い起こされたのかと思うと物悲しい感がする。記念写真を撮り、落ち葉で滑りやすい道を下ると焼杉山分岐峠に到着し小休止。

今年、最後の山登りで、終了後忘年会を行うので時間調整する為、焼杉山（717m）に向かう。傾斜のきつい山道を喘ぎながら登り、山頂へ到着。喘いで登って来た焼杉山分岐峠に戻り、大原へ向けて下る。

冬の季節なのか３時を過ぎると尾根道も自然に薄暗くなりかけてきた頃、林道分岐に到着。獣害防止柵の金網を開けるのに苦労して更に下ると、林道下に沢の音が聞こえ、里山の様相を呈してきた。更に下ると歴史的保存地

区の看板が随所にあり、寂光院門前を経て大原バス停に到着。バスの窓からは、夕暮れの大原三山の景色がくっきり見え、名残を惜しんでくれた。国際会館から京都地下鉄に乗車JR京都駅地下飲食店にて忘年会を盛大に行った。

【コースタイム】

戸寺バス停*09:10*―*09:50*江文神社―*10:40*琴平新宮社―*11:26*金毘羅山―翠黛山*13:00*―*14:45*焼杉山―*15:15*焼杉山分岐峠―*15:45*寂光院前―*16:05*大原バス停

【参加者】

秦康夫　山内幸子　久保和恵　新井浩　内田嘉弘　浦上芳啓　金井健二　戸島泰三郎　中島隆　中谷絹子　野村哲夫　橋本圭之輔　平井一正　松上美代子　松波幹夫　松村文子　宗實慶子　森沢義信　（会友）魚津清和　岐部明弘　黒岩敦子　横山規江　（会員外）浅田博三　井上直美　小林三喜男　中田栄　蓮川博凡　森口藤代　守田チヨ子　計29名

支部山行13-14　ゆるやか山行【里山探訪】
歴史と文化を訪ねる４

額井岳（大和冨士）～戒場山

久保和恵

7月18日（木）小雨のち曇のち晴

猛暑にうだる毎日、今日は曇り空、いや小雨でもとの願いが叶った。榛原駅前からバスに乗り天満台東二丁目で下車。みんな雨具を着ないでザックカバーだけで歩き出す。バス停から50mほど戻り右折、住宅地を抜けると正面に端正な姿の額井岳が見えた。登山口は山裾の十八（いそは）神社。アプローチはアスファルト道を登る。息が少し弾みだしたころ東海自然歩道に出合い、道標に従うこと数分で到着。境内で準備体操の後、神社西側の山道に入る。植林内は暗く蒸し暑い。こまめにドリンクタイムを取りながら登る。まもなく林道に出合い、左に少し行くと右に額井岳への標識がある。足元が悪く、傾斜の増した山道は歩き辛い。やっと南西尾根の峠に到着。雨は止み、雑木を通す風に癒される。もう一息と頂上へ。頂上（812.6m）は古木が茂るが小広い笹原に小祠と休憩舎がある。

その背後に四等三角点があった。南側の展望テラスは朽ちるに任せ立ち入り禁止。おまけに成長した植林に視界を遮られ、期待の展望は得られなかった。戒場山への途中、反射板の辺りで昼食をとり、赤松の目立つ雑木林の木漏れ日と微風を肌に感じながら戒場峠まで下る。最

額井岳頂上にて　写真提供：中島隆

後の急登に汗しつつ三等三角点のある山頂（738m）に立った。周囲は植林で展望はない。戒長寺への急傾斜を慎重に下り、戒長寺に隣接する戒場神社に降り立った。ホオノキの巨樹（県指定天然記念物）が圧巻だ。庭仕事の手を休めて話す和尚さんに耳を傾けながら、海抜600mあると聞く戒長寺の自然に溶け込んでいる風情を味わう。本尊（県指定文化財）、銅鐘（重文）、お葉つきイチョウ（県指定天然記念物）、など歴史の深さも感じる。時機あればお願いし、寺仏など拝観させて頂きたいと思う。寺を後にアジサイが彩る石段を下りると東海自然歩道に出た。万葉歌人山部赤人の墓に向かう。途中で高見山を遠望。程なく立派な石造五輪塔の墓に着く。そこから朝出合った分岐に戻り、往路をバス停に向かう。額井集落からも遠く音羽三山、龍門岳、烏ノ塒屋山などのパノラマが素晴らしい。振り向けば、額井岳を背に棚田に民家の点在する里山の風景があった。榛原は伊勢街道が通じ、古来、文化が交わる地であったという。今日はその一部に触れた里山探訪であった。

【コースタイム】

天満台東二丁目バス停*09:38*―*10:04*十八神社―*11:36*額井岳―*12:03*反射板（昼食）―*13:12*峠―*14:04*戒場山―*14:27*戒長寺―*15:10*山部赤人の墓―*15:54*天満台西二丁目バス停―*16:03*榛原駅

【参加者】

山内幸子　秋枝秀實　新井浩　新本政子　魚津清和　内田嘉弘　内田昌子　浦上芳啓　金井健二　戸島泰三郎　中島隆　橋本圭之輔　平井一正　松波幹夫　森澤義信　久保和恵　（会友）岐部明弘　黒岩敦子　小林三喜男　中田栄　蓮川博凡　横山規江　（会員外）橋原史　計23名

支部山行13-16　海外山行
パプアニューギニア最高峰
ウィルヘルム山（4509m）
重廣恒夫

7月27日（土）晴

成田空港で一般参加の３名の方々と初対面、78歳のＴＳさんは滋賀県、76歳のＫＦさんは広島県、71歳のＮＳさんは大阪府からの参加である。今回は関西支部の主催としながら参加者がなかったので、妻でも連れてのんびり登ろうと思っていたが総勢５名平均年齢71歳の高年齢パーティーとなった。

7月28日（日）晴

成田空港を出発した飛行機は約5000㎞南下し、早朝のポートモレスビー・ジャクソン国際空港に到着した。荷物を受け取った後、現地駐在の上岡さんと国内線の搭乗手続きをおこなう。その後、空港の側にあるホテルで朝食を摂り、再び空港からゴロカへ飛ぶ。１時間ほどのフライトで降り立ったゴロカ空港は標高1600ｍ程のところにあり、直射日光は強いが涼しさを感じる。空港では現地駐在の見形さん（NHKのBSプレミアムで放映されたウィルヘルム山取材の現地コーディネーター）に迎えられ、伝統料理ムームー料理の昼食やマッド･マンのダンスを見た後、ゴロカ大学を見学する。

7月29日（月）晴

ランドクルーザーでハイランドハイウェイを通ってクンディアワへ到着。昼食後、未舗装の道路をケグルスグルに向かった。腸が飛び出すような道路を２時間ほど走ってベティズ･ロッジに到着。長野で学んだという養鱒場を見学する。夕食は鱒の塩焼きと野菜料理だったが、ことのほか美味しかった。

7月30日（火）雨後晴

ウィルヘルム頂上にて　写真：重廣恒夫

ロッジの裏手から登り始める。鬱蒼としたジャングルの中の道は枝道が錯綜しており、ガイドがいないと間違えてしまいそうである。ランの花が咲き野鳥の囀る森を抜けると大型のシダが生い茂る草原となり、その後ピウンデ湖から流れ落ちる滝の側を通って湖畔の山小屋に到着した。オーストラリアからの16名と同宿であり、狭い小屋は満杯となり食事は21時過ぎまで続き、なかなか寝付かれなかった。

7月31日（水）晴

前日小屋に到着後は夜半まで大雨が振り続き、今日の出発が危ぶまれた。24時頃に外を見ると雨は止んでいたので２時過ぎに出発する。真暗闇の中ぬかるんだ道をヘッドランプの灯りを頼りに歩く。だらだらとしたトラバース道を進み周辺が明るくなっても、まだ真下にアウンデ湖とピウンデ湖が見えて愕然とする。途中、濡れた岩場の通過も多いのでお客さんのザックはポーターに担がせ､安全を期して78歳のＴＳさんはアンザイレンをする。急坂を過ぎると稜線場のコースとなりクリストファーを過ぎたところからやっと頂上の標識が見えた。頂上直下の急な岩場を一登りするとそこが頂上だった。山頂からはビスマルク山脈の山並みが見えた。天気の良い時は南太平洋まで遠望できるという。出発してすぐにガイドが高度障害で下山したので、衛星電話で見形さんに登頂の報告をする｡しばらく休んでから慎重に往路を下ったが、全行程12時間半のロングウェイであった。

【コースタイム】

７月30日　ベティズ･ロッジ*08:21—08:53*第１休憩所*09:05—09:35*第２休憩所*09:45—10:25*第３休憩所*10:43—11:37*第４休憩所*11:47—12:14*第５休憩所*12:24—12:55*湖畔ロッジ*14:10—14:56*アウンデ湖畔*15:25—16:00*湖畔ロッジ

７月31日　湖畔ロッジ*02:10—02:48* 3600ｍ*03:00—03:50* 3755ｍ*04:00—04:21* 3830ｍ*04:30—06:40* 4070ｍ*07:00—07:45*クリストファー*08:00—09:20*頂上*09:50—10:59*クリストファー*11:00—12:00* 3920ｍ*12:20—14:40*湖畔ロッジ

８月１日　湖畔ロッジ*06:40—09:15*ベティズ・ロッジ

【参加者】

重廣恒夫　他４名

支部山行12-18　関西支部県境縦走８
大海里峠～峰越峠～大通峠
稲葉淳一

8月24日（土）雨

小雨の降り続く林道ダルガ峰線の入山地点で、岡山県からの仲間５名が加わり賑やかになる。早速、作業道に取り付いたが、すぐ先で植林の伐採が始まっており作業道を塞ぐ伐採材を乗り越えたり潜ったりしながら県境縦走開始点の大海里峠へ向かう。

峠の標識で一息入れ、自然歩道に乗って北進。すぐ先で山裾を巻く遊歩道を左へ見送り、草付きの岩場を右に振りながら登り切り、サラサドウダンの群落尾根を進むと、ススキの茂みに四等三角点が隠れていた。この山頂は絶好の展望地だが、降雨で全く視程が伸びない。早々に山頂を辞して灌木に覆われた尾根を下り再び自然歩道に合流する。やがて広い灌木帯の中に山名標柱が目に入る。このおかげでダルガ峰山頂と分かるほどの平坦な地形だ。植林帯の中を進むと右手が明るくなり「ちくさ高原スキー場」のリフトトップへ出た。

雨も降り続くので、休憩も取らずに先を急ぐ。左の作業道を横目で見ながら、あえて樹林の尾根を歩いてP1081に到着し一息入れる。ここから先程見落とした「タタラ」の三角点を訪ねることにする。

往路を少し引き返し、背丈を越えるススキの中の踏み跡を分けて進むと、植林のはずれに山頂とは思えない平坦な切り開きがあり、そこに四等三角点標柱がぽつんと埋まっていた。以前に訪れた時よりススキが繁茂し藪化していたが、点名を書いた懐かしい木札が残っていたが、ここを訪れる人は三角点マニアぐらいだろう。

P1081へ引き返し、さらに東の植林尾根を辿るが、この山域は昔のタタラ製鉄の砂鉄採取で山が掘り返されて地形が複雑になっており、当時の炭焼き窯跡や遺構も残っている。乢へ一旦下り、直下の手がかりの少ない急な山腹を喘ぎながら登り切ると、薄暗い植林の高みに三等三角点と山名標柱があった。

ここまで来ると県境踏査終了点の峰越峠はすぐ先で、小ピークを二つ越えて県道の法面上部から滑り降りるとサポート隊が出迎えてくれた。雨の止んだ峠の東屋で、ずぶ濡れになった雨支度を解く。

下山後はサポート隊のお世話で、千種町のエーガイヤ「ちくさ温泉」で入浴し、後山の山麓にある修験荘で、翌日の好天を期待して爆睡したが甘かった。

8月25日（日）雨のち曇

峰越峠に戻って踏査縦走の準備をするも期待に反して朝から強い雨が降り続き、どうなることかと思っているうちに入山時には小雨に変わった。こんな生憎の天気だが今日も宍粟市の仲間２名が加わる。

県境を忠実に辿るために、県道の境界標識に廻り込み

ネマガリタケが現れる縦走路　写真提供：稲葉淳一

急な法面を登って高みを越え、再び峰越峠の東屋近くに降りた。峠から三国平の登山口に向かい、旧自然歩道の快適な登山道に乗る。鳥取県側の植林を左に見ながらブナ巨木の原生林を進むと、やがて三国平への分岐標識に出逢い、右の笹原を下る。整備された登山道を５分ほど下ると、可愛らしい江波峠のお地蔵さんが鎮座しておられたので、挨拶をして先を急ぐ。お地蔵さんから数分で、山名標柱の立つ三国平の広場に着く。

しばしの休憩後、いよいよネマガリタケの藪の領域に踏み込み、膝下の籔を分けて進むが、最近は無積雪期でも稀に通過者がいるようで、踏み跡のような痕跡がしばらく続く。やがて密集したネマガリタケに突入。時折、開けた場所に出ながら背丈のネマガリタケを分けて前進する。P1226を通過すると、藪がさらに濃くなるが高みへ向かうと、灌木の上部に付けられた天児屋山の小さな山名木札が見えてくる。山頂の狭い切り開きに飛び出すと、三等三角点標石が埋まり三角点標示杭が倒れていた。周囲は、背丈を越えるネマガリタケで、展望はあまり無い。

しばらく休憩して東に向かい、再びネマガリタケに突入するが、下る方向が少しずれて行くのでルートを修正。迂闊に谷へ降りるとネマガリタケの倒れたジャングルに絡まれて身動きが取れなくなる。

山頂から500m程のカナゴ乢へは激しい藪に阻まれて１時間半かかって下った。手強い竹籔に翻弄され、県境を外しては修正復帰したため、深い藪で迷う者も居て、なかなか進まなかった。

カナゴ乢から登り返すと、尾根に切り開きが現れ、杣人の目印もあるので誘われて下ると、南の尾根に乗ってしまった。止む無く、適当な山腹からトラバースして歩きやすい県境尾根に復帰し安堵する。藪も薄くなり明瞭になった尾根を辿ると、明るい中江乢に降りた。乢の横に大きな国有林標石「七〇」が有り、赤いテープが巻い

てある。ようやく天候も回復し、日差しも少し出て皆の顔に笑顔が戻る。

P1081を越えて美しいブナの原生林の杣道を下り、全員無事に踏査終了点の大通峠に降り立った。

【コースタイム】

24日　作業道入口*10:30*—*11:00*大海里峠—*11:15*△大海里—*11:40*ダルガ峰—*12:10*ちくさ高原スキー場リフト—*13:00*△タタラ—*14:20*△長義山—*14:50*峰越峠

25日　峰越峠*05:40*—*06:50*江浪峠—*06:55*三国平—*08:35*△天児屋山*09:00*—*10:35*カナゴ乢—*12:55*中江乢—*13:20*大通峠

【参加者】

重廣恒夫　黒田記代　新本政子　清瀬祐司　阪下幸一　辻和雄　橋本圭之輔　前田正彰　村田かおり　黒岩敦子　稲葉淳一　(24日のみ)白幡佳三　小椋由文　森岩栄　白岩将伍　世良智　(25日のみ)高科博幸　八木偉行　山内公一　(サポート)須磨岡輯

24日計16名　25日計14名

支部山行13-19　沢例会

四国・吉野川源流から瓶が森へ

茂木完治

吉野川源流の白猪谷(しらいだに)には2009年６月に沢仲間と来たことがある。その時私は腰痛を起こしていて、私だけ上に抜けられなかった。そのリベンジをすることにした。前回同様麓の寺川に小屋を持つ高知の鷲尾山岳会のお世話になり、小屋をベースに日帰りで登ることにした。

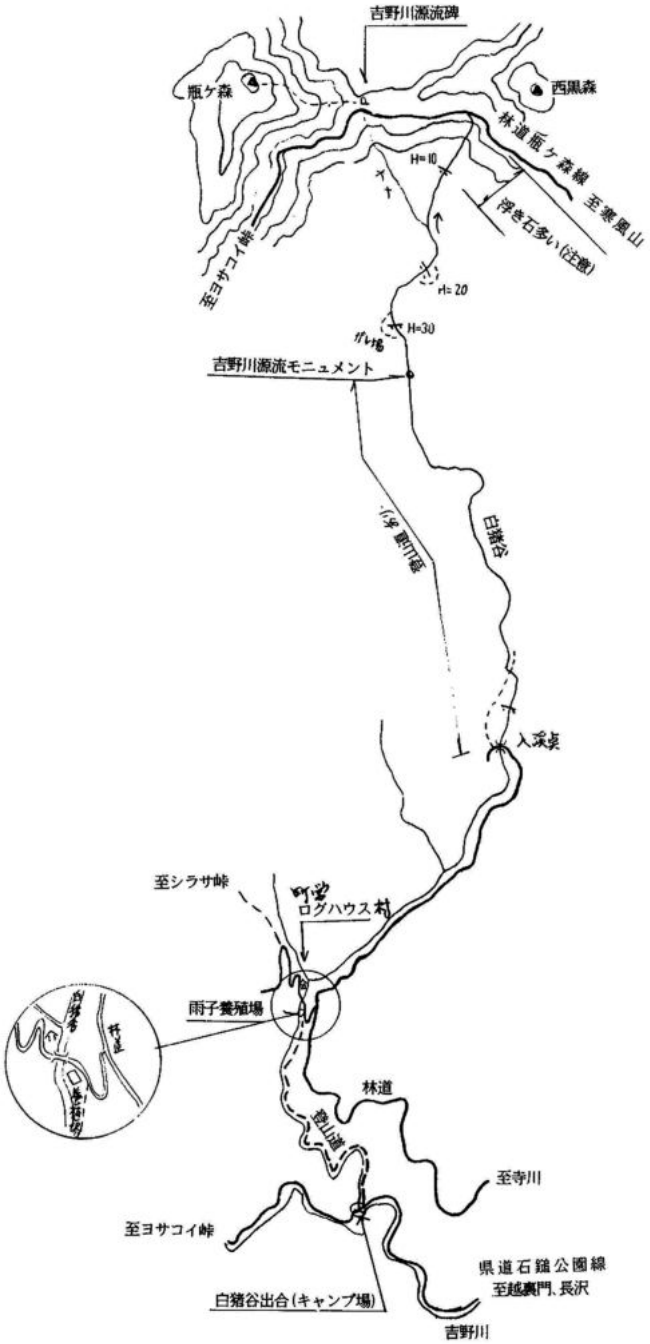
8月30日

山内さん、辻さんを乗せて大阪を出発した。おりから台風15号が東シナ海を日本に向かっていて、こちらはそれに真向から突っ込んで行く感じであまり気持ちがよくない。時折激しく降る雨を潜って鷲尾山荘に着いた。すでに鷲尾山岳会の岡村さん、市村さんが来られていて歓迎していただく。さらに遅くなって鷲尾山岳会の永澤さんも来られた。

8月31日

相変わらず雨模様であるが四国メンバーも集まり決行を決める。吉野川の源流モニュメントへの登山口のある白猪谷の橋まで車で行き、そこから踏跡をたどって川に下り沢登りを開始した。おりからの天気のせいか水量も豊富で、たちまち腹までの渡渉を強いられた。谷は廊下状が続く「谷らしい谷」というべきで、沢屋好みの心地よさに鼻歌の一つも出ようというものである。最初の淵は右から巻き、二つめのこの谷最大の直径30mの淵は左よりへずって越えた。少し行くと登山道が谷を横切る。ここで待つうちにモニュメントへ登山道を歩く永澤さんと佐野さんがやってきた。二人と別れて谷の遡行を再開した。３つ目の淵を右から巻き、断続的に滝の続く谷を遡ると次第に傾斜が増し、ゴーロ状になった。やがて左の大岩の上に鎮座するステンレスの吉野川源流モニュメントに着いた。

モニュメントの少し上流にはこの谷最大の30m滝がある。これを左から巻いて越えると谷は次々と斜滝が続き、二又に着く。なにしろ12名という大パーティである。人



白猪谷遡行図　(鷲尾山岳会より提供)

水量豊富の下流　写真提供：茂木完治

工落石が一番怖い。傾斜も比較的緩い右俣をルートに選んだ。浮石だらけの傾斜のある谷を詰めて瓶が森林道に上がった。

林道を寒風峠方面へ少し歩き神鳴池へ行く。しかし池には水がないそうで、ただの笹原が見えるだけだった。瓶が森の駐車場方向へ歩いていると、とうとう土砂降りの雨になった。瓶が森の頂上に登ると、横殴りの風と雨で目も開けられない。記念写真を撮って早々に下山した。駐車場に鷲尾山岳会の車が迎えに来てくれていて、鷲尾山荘へ戻った。小屋では鰹のたたきを造っていただくなど至れり尽くせりの歓迎をいただき、感謝感激であった。

9月1日

朝から雨であった。雨は昨日よりもひどい。昨日のうちに登れてよかった。4000山グランプリに参加する四国支部隊と別れ、大阪隊は面河渓谷の鉄砲谷の滑滝へ遊びに行くことにした。しかし雨で気合が入らず、谷の入口のゲートが閉まっていたのを幸いと挫折し、面河渓谷の探勝路歩きで我慢して大阪へ帰った。

今回の沢登りができたのはなによりも高知の鷲尾山岳会のご協力の賜物であり、また心づくしの歓迎にこの場を借りて篤く御礼申し上げます。

【コースタイム】

31日　鷲尾山荘*07:10*―*07:40*林道の谷横切り点―*07:50*最初の大淵―*08:15*最大の大淵―*08:45*登山道横断―*09:05*三つ目の大淵―*10:30*吉野川モニュメント*11:00*―*11:10*大滝下―*12:40*林道―*12:45*神鳴池―*14:05*瓶が森―*15:00*駐車場―*16:00*鷲尾山荘

【参加者】

山内幸子　辻和雄　河野直子　佐野加代子　上村規子　茂木完治（以上関西支部）　尾野益大　渡辺潔　越智晶子　長瀬美代子　岩井賢助（以上四国支部）
（会員外）磯田裕二　牧野由加利　　計13名

支部山行12-20　ゆるやか山行【里山探訪】
歴史と文化を訪ねる５

９月５日（木）実施予定の「湖北の山・呉枯ノ峰」は台風19号襲来予報により中止しました。

支部山行12-23　ゆるやか山行【里山探訪】
歴史と文化を訪ねる６

湖東・八幡山北尾根縦走

中野峯子

10月3日（木）晴

凄まじい暑さの、7、8月　そして９月の残暑と台風！やっと待ちに待った秋、10月です。今回も28名と言う大所帯賑やかになりそう！

JR近江八幡駅からバスに乗る。百々神社からの緩やかな登り、足に優しいフカフカの道そして木陰、快適です。オオイワカガミの群生地を見ながら、西の湖展望台へ。田畑と水郷の眺望の素晴らしい事、ゆったりと水郷巡りの舟も見てとれる。

何時の日か水郷巡りも良いかもと密かに思う。望西峰

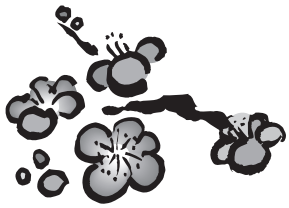
関西支部新年会のお知らせ

平成26年新年会を下記要領で開催いたします。
多数のご参加をお願いします。
併せて、新ルームをお披露目いたしますのでご案内申し上げます。

日　時　2014年１月29日（水）　18時30分～
会　場　大阪梅田「大東洋」　電話06-6312-7525
会　費　6,000円

新ルーム案内：15～18時の間、「大東洋」前にて支部委員が待機してご案内いたします。

出欠は同封のハガキに50円切手を貼って、１月14日までにご返事お願いいたします。



写真提供：中島隆

からの眺望は期待外れ、そこからは少し下り、全体に標高がさほどでもないので大した下りでもない。北虎口展望台で食事、八幡山縦走路そのものが、悲運の豊臣秀次に依って築城された八幡城跡、数か所に当時のままかしら？朽ちかけた石垣がある。西の丸跡等から村雲御所。秀吉の姉のともにより我が子秀次の菩提を弔う為に京都、村雲の地に創建され、主要建物が八幡山へ移築されたのだとか。秀吉が天下人に昇りつめた事により秀次、姉のとも、その夫の三好一路は、鍬に変わり裃に刀、秀吉に翻弄された生涯、あのまま野良着に鍬を持ち田畑を耕す日々の方が幸せではなかったか…と。ロープウエイ横から躓かない様に転ばないようにと注意しながらの下山でした。百々神社から下山まで木々の間を歩き素敵な山でした。

私事ながら５月の矢田丘陵以来の参加、秋風が涼しく素晴らしい山でした。今日楽しく歩けた事の感謝を日牟礼八幡宮にお参りして解散となった。

【コースタイム】

ユース前バス停*10:02—10:10*百々神社*10:20—10:43*オオイワカガミ群生地—*10:58*西の湖展望台—*11:03*望西峰—*11:42*３級基準点*11:52—11:52*北虎口上展望台（昼食）*12:20—12:32*長命寺港展望台—*12:34*北之庄城跡七ツ池—*13:07*八幡山*13:49—13:23*西の丸跡*13:30—13:36*村雲御所*13:49—14:50*日牟礼神社（解散）

【参加者】

久保和恵　山内幸子　新井浩　岩崎しのぶ　上田典子　魚津清和　内田昌子　浦上芳啓　阪下幸一　阪下悦子　戸島泰三郎　中島隆　中谷絹子　西尾俊子　秦康夫　平井一正　松波幹夫　岐部明弘　小林三喜男　中川富夫　中田栄　中野峯子　横山規江　長島泰博　秋月修次　新井幹子　井上直美　田中アキエ　計28名

「本山寺山森林づくりの会」作業報告

秦　泰夫

2013年7月18日（木）9:30～15:00

３名ずつ２班に分かれて作業し、前回やり残した第２区画、第３区画の間伐は一応終了した。小屋と立て看板用の材もかなり調達でき適材の皮剥きも進んだ。伐採に際して、微妙な傾きと枝の繁り具合から、木が倒れたいと思っている方向は大体予測できるのだが、その方向に倒れたら掛かり木になること必至、という場合がある。こちらの倒したい方向へ受け口を作り、無理にロープで誘導してみるが、木の意志には逆らえず、なかなかこちらの思う方向には倒れてくれない。複雑な掛かり木になり、後処理に苦労した。

参加者：阪下幸一　薦田佳一　倉谷邦雄　斧田一陽　宮本廣　秦康夫　（計６名）

2013年８月18日（日）10:00～15:00

今回で第３～第５区画の間伐を完了するとの予定で３名ずつ３班に分かれて作業開始。第３区画、第４区画は予定通り間伐終了したが、第５区画は間伐予定材が数本残った。伐りやすい木から伐ってきたため、伐り残しの間伐予定材は、ほとんどが足場の悪い急斜面にあり、作業能率が悪かった。次回以降、第５区画の間伐と第３～第５区画の間伐記録の集計、第６区画以降の選木及び立て看板設置作業にかかる予定。

参加者：斧田一陽　黒山泰弘　秦康夫　武田壽夫　薦田佳一　福井誠　宮本廣　倉谷邦雄　中村賢三　（計９名）

2013年9月19日（日）9:30～15:30

間伐班２組（各４名）と調査班（２名）に分かれて作業した。午前、午後併せて26本の間伐と10数本の除伐を実施、調査班の作業も進みNo.185までカウント済み。間伐が進んだので樹間も開けて明るくなり、厄介な掛かり木も少なくなった。今回の作業場所は急な斜面だったので、足場の確保と流れ木や落石の防止には神経を使ったが、作業の成果が目に見えて現れるというのは楽しいものだ。次回は、浦上会員の監理指導のもと、作業用具小屋の建設作業にかかる予定。

参加者：斧田一陽　阪下幸一　中島隆　中谷絹子　秦康夫　武田壽夫　薦田佳一　宮本廣　倉谷邦雄　中村賢三　（計10名）

第２４回　藤木祭報告

昨年の藤木祭は台風のため、藤木祭始まって以来の中止となりました。本来なら今回は第25回となるところでありますが、昨年の順延とし、第24回として開催されました。

桑田会員の司会で始まり、重廣支部長、山中健芦屋市長の挨拶に続き、神戸市建設局六甲山整備室長・松岡達郎氏の「森林整備を考える」と題したお話がありました。

配られた資料には表六甲ドライイブウェイの現在と過去の写真など、六甲山の数か所の比較写真が載っており、植林による景観の違いがよく分かりました。このあと、恒例の藤木摩耶子さんの短歌朗詠に続き、アシヤユースコーラスや参加者全員による合唱の後、山並久次府岳連会長の閉会の言葉をもって今年の藤木祭は幕を閉じました。

なお、藤木祭の発起人である浅野清彦会員が久しぶりにお見えになっていらっしゃいましたので、感想をいただきました。（水谷　透）

去年は珍しく雨で藤木祭中止。そして今年。午後１時開催に昼前から続々。車椅子の私がまさか参加できるとは思ってもいなかった。そこへ、若い山屋が「車で行こう。下車後の急坂は背押し、肩貸しで何とか」と。当日、皆さんのお蔭で大谷茶屋に辿り着きました。山屋の皆さん、ありがとうございました。

芦屋市長さん「日本一美しい街芦屋と紹介し、必ずReliefを話します」と。六甲山整備室長さん「六甲は人の手が入って却って保護されている面もあり。例えばゴルフ場に珍しい樹 が保護されているとか」。アシヤユースコーラスの美しい合唱に続き、懐かしい箱根八里を皆で歌い、満足しました。

藤木高嶺氏は手術入院中で見えず。話が聴けず淋しいでした。思えば昭和36年、藤木祭の言い出しべの一人である私が、52年経って老いて、やっと高座の滝に辿り着いて、古い山友と逢えて、感無量です。（浅野清彦）

第24回（再）藤木祭 会計報告

平成25年９月29日（日）

【収入の部】

藤木高嶺氏より		10,000円
藤木氏ご親族より 10,000円×３件		30,000円
＜拠出金＞		
兵庫県山岳連盟		40,000円
大阪府山岳連盟		40,000円
日本山岳会関西支部		40,000円
	小　計	160,000円
＜雑収入＞　利息		25円
前期繰越金		144,601円
	合　計	304,626円

【支出の部】

コーラス御礼		20,000円
演者謝礼		（ご辞退）
印刷代		16,800円
送料		1,920円
コピー代　歌詞・講演資料		10,600円
マイクセットレンタル料		8,400円
大谷茶屋支払		24,900円
大谷茶屋御礼		10,000円
保険料　@40×61名		2,440円
雑費　　運搬費		2,440円
おにぎり代　40個		4,666円
	小 計	102,166円
次期繰越金		202,460円
	合 計	304,626円

藤木祭実行委員会会計　久保和恵㊞

自然保護全国集会報告

2013年度の自然保護全国集会は、富山支部との共催で「立山・弥陀ヶ原の自然に学ぶ」をテーマに７月６日から７日の二日間、富山市の立山国際ホテルで開催された。

参加者は、各支部の自然保護委員など101名、ゲスト６名であった。

全国集会に先立って開催された支部報告会で関西支部は、⑴森づくり活動による自然保護（本山寺山の森林づくり、東お多福山草原復元）⑵自然観察会　⑶やまみ

ち巡視保全　⑷大台ヶ原の利用に関する協議会についての活動状況を報告した。

全国集会では、節田重節副会長、舟橋貴之立山町長などの挨拶の後、立山カルデラ砂防博物館の飯田肇氏により「立山連峰の積雪と氷河」と題する基調講演が行われた。万年雪として知られていた剱岳小窓雪渓と三の窓雪渓、立山の御前沢雪渓が、日本初の現存する「氷河」であることが、2012年学術的に認められたことと、その調査活動の結果報告が発表された。続いて「弥陀ヶ原自然と歴史の今昔」と題して佐藤武彦環境省自然公園指導員は、長年にわたる自然解説や自然保護指導をされた立場から話された。

グループ討議では、①湿原の自然と保護　②ライチョウの生態と保護　③信仰登山について　④持続可能な自然環境の管理についての４分野に分かれてそれぞれ討議した。筆者らはグループ④に加わり、学術的な自然保護は別として、利用者側として⑴人間も自然の一員であることの自覚　⑵ワイズユース（賢明な利用）の立場で、自然保護を考える必要があることを述べた。また、各地で優秀なガイドが育成され、その適切な利用によって自然環境の管理が行き届くことに繋がることについても触れた。

懇親会では、関西支部から参加した中谷絹子さん共々、なごやかな意見交換に努めた。静岡、東海、京都、四国、広島など近隣の支部の方々と、特に懇親を深めることができた。（斧田一陽）

翌日は、フィールドスタディで ①弥陀ヶ原　②室堂平　③立山カルデラ砂防博物館と立山博物館の３コースが用意されていた。私たちは①のコースに参加した。

立山の弥陀ヶ原は、国際的に重要な湿地として平成24年７月３日、ラムサール条約に登録されている。中部山岳国立公園の特別保護地区で、標高約2000mと国内の条約湿地では最も高いところに位置している。

朝８時に立山駅に集合。美女平から弥陀ヶ原に向かう。バスは追分で下車。天気は生憎の雨降り。なだらかな溶岩台地の上に広がる弥陀ヶ原の湿原をグループに分かれ、各リーダーのもと湿原木道を歩き自然観察を行った。雨に煙って幻想的な風景が美しく、ウラジロナナカマドの白い花が咲いていた。オオシラビソも霞んで見える。湿原の植物としては、ノビネチドリ、チングルマ、ゼンテイカ（別名ニッコウキスゲ）、イワカガミ、コシジオウレン（別名ミツバノバイカオウレン）など。

今年も5～6mの積雪があった。雪解け水は高原を潤し「餓鬼の田」と呼ばれる地塘が点在している。以前は3000ヶ所あったが、今では1500ヶ所に減っていると説明を受けた。温暖化や酸性雨、外来植物の影響を受けているのでしょうか。湿原木道のそばにミヤマハンノキの芽吹きが色鮮やかで目にとまる。立山カルデラ展望台も往復した後、現地散会した。弥陀ヶ原散策コースの参加者数は50数名。

約２時間30分の弥陀ヶ原の高層湿原を富山支部の方々の配慮により、楽しい散策となりました。

（中谷絹子）

「立山弥陀ヶ原の地塘（餓鬼田）」　写真提供：中谷絹子

2014年1月～3月　支部山行計画

※申込み先は後のリストを参照してください【いずれも締切厳守】

13-33　陽だまり山行　青春18キップで行く干支の山

「馬山 174.1m」

日　時：１月５日（日）

集　合：姫路駅姫新線ホーム　９時40分集合
　　9：45発播磨新宮行き乗車　太市駅下車

コース：太市駅―太市駅家跡―向池―馬山―若王子神社―太市駅

地　図：2.5万分の１「網干」

備　考：今年の干支の山です。コースは天候、時間の都合などで変更する場合があります

申込み：12月24日迄　山内幸子

13-34　ゆるやか山行　【里山探訪】歴史と文化を訪ねる９

「橿原神宮初詣と大和三山」

日　時：１月９日（木）

コース：近鉄橿原神宮前駅―橿原神宮―畝傍山―本薬師寺―紀寺跡―香具山―藤原宮跡―耳成山―

近鉄大和八木駅
備　考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く
山行で詳細は参加者に連絡します
コースを変更する場合もあります
歩行距離約12㎞　約４時間（休憩時間除く）
申込み：１月４日迄（締切厳守）　久保和恵

13-35　4000グランプリ

「安堵山1183.7m～冷水山1261.9m」
日　時：１月11日（土）～13日（月）
コース：紀伊田辺駅―学校前バス停―安堵山―冷水山―十津川温泉
地　図：2.5万分の１「発心門」「重里」
備　考：詳しくは担当者に問い合わせてください
難易度の高い山　テント山行　一般参加可
山岳保険加入が必須
申込み：12月27日迄　重廣恒夫

13-36　近場でスキー

「ハチ高原」
日　時：１月14日（火）～16日（木）
宿　泊：ハチ高原　ねむの木山荘　シュラフ持参
備　考：定員８～10名
自家用車の協力をお願いします
今年は自炊になります
集合場所等は参加者に別途案内します
申込み：12月31日迄　廣田猛夫

13-37　関西支部県境縦走13

日　時：１月25日（土）・26日（日）
コース：12月までの進捗状況によりコースが決まりますＨＰ等で確認してください
備　考：詳しくは申込者に連絡します
申込み：１月８日迄　黒田記代

13-38　4000山グランプリ

「烏帽子山929.2m～大雲取山965.7m」
日　時：２月８日（土）・９日（日）
コース：那智勝浦駅―大門坂―烏帽子山―大雲取山―地蔵茶屋―那智高原
地　図：2.5万分の１「紀伊大野」「新宮」
備　考：詳しくは担当者に問い合わせてください
難易度の高い山　テント山行　一般参加可
山岳保険加入が必須
申込み：１月27日迄　重廣恒夫

13-39　レスキュー講座（座学）

「雪上研修会のための事前学習会」
日　時：２月18日（火）　18：30～20：00
場　所：関西支部ルーム「東梅田ビル３Ｆ　304号室」
内　容：「びわ湖バレー」の雪上講習会（2/22）に必要な知識を事前に学習します
持ち物：2m前後の細引き（直径6～７㎜）２本、カラビナ２枚、ビーコン、レスキューロープのある方は持参下さい
申込み：２月11日迄　山本一夫

13-40　ゆるやか山行　【里山探訪】歴史と文化を訪ねる10

「高安山から信貴山」
日　時：２月20日（木）
コース：信貴山口駅―高安山―信貴山―信貴山下駅
備　考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く
山行で詳細は参加者に連絡します
コースを変更する場合もあります
歩行距離約８km　４時間（休憩時間除く）
申込み：２月15日迄（締切厳守）　久保和恵

13-41　レスキュー講座　雪上研修会

「びわ湖バレーにて」
日　時：２月22日（土）　9：30～15：00
場　所：比良山びわ湖バレー
集　合：びわ湖バレーゴンドラ乗場　９時30分（バス下車すぐ）
内　容：「冬山で必要とされる知識・技術の研修」
持ち物：個人装備　ピッケル・ワカン・アイゼン・サングラスorゴーグルなど
あればよいもの　ゾンデ棒・ビーコン・スコップ・ツエルト・スノーソー・スノーピッケル・レスキューロープ（直径8～9㎜、長さ10～20m前後）
申込み：２月11日迄　山本一夫

13-42　関西支部県境縦走14

日　時：２月22日（土）・23日（日）
コース：１月までの進捗状況によりコースが決まりますＨＰ等で確認してください
備　考：詳しくは申込者に連絡します
申込み：２月５日迄　黒田記代

13-43　五支部合同スキー山行

日　時：３月１日（土）・２日（日）
集　合：１日　戸隠高原ホテル集合　16時
コース：ホテル―戸隠スキー場―瑪瑙山―飯綱山山頂―飯綱神社―西登山道経由―スキー場（中社）―ホテル
申込み：１月31日迄　廣田猛夫

13-44　4000山グランプリ

「法恩寺山1356m～経ヶ岳1625.2m」
日　時：３月８日(土)・９日(日)
コース：勝山駅―平泉寺―法恩寺山―経ヶ岳―保月山―県自然保護センター
地　図：2.5万分の１「越前勝山」「願教寺山」
備　考：詳しくは担当者に問い合わせてください
難易度の高い山　テント山行　一般参加可
山岳保険加入が必須
申込み：２月24日迄　重廣恒夫

13-45　ゆるやか山行　【里山探訪】歴史と文化を訪ねる11
「交野山から国見山」
日　時：３月20日(木)
コース：JR河内磐船―かいがけの道―路傍の里―交野山―白旗池―国見山―JR津田駅
備　考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行で詳細は参加者に連絡します
コースを変更する場合もあります
歩行距離　約10km　約４時間(休憩時間除く)
申込み：３月15日迄(締切厳守)　久保和恵

13-46　関西支部県境縦走15
日　時：３月21日(金)～23日(日)
コース：２月までの進捗状況によりコースが決まりますＨＰ等で確認してください
備　考：詳しくは申込者に連絡します
申込み：３月５日迄　山内幸子

申込み先一覧

重廣恒夫	e-mail：shigehiro-ts@asics.co.jp
久保和恵	e-mail：uncletorys05-kazu@nifty.com
	FAX：079-565-0530
黒田記代	e-mail：kuroda@makino.kmu.ac.jp
廣田猛夫	FAX：072-792-0971
山内幸子	e-mail：sacchyama2f0710@yk2.so-net.ne.jp
山本一夫	e-mail：miyako385@sky.plala.or.jp

ステップアップ登山教室　　一般対象　募集中

３rdステップ

初級	１月７日(火)	岩倉～焼山～西鎌倉山
	２月４日(火)	差桐峠～三国ヶ嶽～△527.8m
	３月４日(火)	山王山～扶養ヶ岳～峯ヶ畑
中級	１月23日(木)	百間滝・七曲滝～湯槽谷山
	２月20日(木)	ノースロード～シュラインロード～古寺山
	３月20日(木)	西山谷～ダイヤモンドポイント～水晶山
上級	１月16日(木)	比良山・堂満岳
	２月13日(木)	比良山・堂満岳
	３月13日(木)	比良山・蓬莱山

2014年1月～3月　自 然 保 護 行 事

１　東お多福山草原復元活動
全面刈作業
日　時：３月26日(水)　予備日27日(木)

２　自然観察会
「本山寺山の森」冬の自然観察
日　時：２月16日(日)

３　本山寺山森林づくりの会活動
⑴１月23日(木)　間伐、林床整備
⑵２月16日(日)　自然観察、植生調査、物置・案内板作成
⑶３月13日(木)　間伐、林床整備

申込み先
斧田一陽　TEL＆FAX 072-633-6556／090-4037-4542
※締め切り：原則として開催日の一週間前迄

「蔵書を読む会」のご案内

ルームの蔵書整理も進みました。貴重な図書やすばらしい本が揃っています。年に４回「蔵書を読む会」を開催していますので、ご参加をお待ちしております。

第３回開催　１月22日(水)
第４会開催　３月12日(水)

時　間　いずれも午後１時～午後５時(予定)
会　場　関西支部　新ルーム

〔図書委員会〕

ナカニシヤ出版

606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15〔税抜〕
TEL 075-723-0111／FAX 075-723-0095

登山案内 ◎五〇〇m未満の全一等三角点を紹介！

新刊

続 一等三角点全国ガイド

一等三角點研究會 編著 A5判 212頁 1800円

五〇〇m未満の全一等三角点（429点）を網羅した、全2巻完結編。中高年がトレッキングでも到達できる里山から、岬・無人島、また自衛隊の基地内や学校のほか公共施設、民家の庭先まで、その所在地は多士済々。

高知・鷲尾山

登山案内

一等三角点全国ガイド

一等三角點研究會 編著 A5判 260頁 2000円

北海道から沖縄まで五〇〇m以上の全一等三角点について、標高・基準点コード・選点・地形図名・経緯度・所在地と写真を掲載し、研究會の会員が実際に辿った出発地から登山口を経て三角点までの登山道を案内。

奈良・釈迦ヶ岳

◎奈良の世界遺産・春日山照葉樹林が危ない！

世界遺産 春日山原始林

—照葉樹林とシカをめぐる生態と文化—

前迫ゆり 編著 A5判 292頁（口絵20頁） 2500円

天然記念物のシカの影響などで崩壊の危機に瀕している春日山原始林を語り、未来への方策を考える。

◎「山が好き、本が好き」が半世紀にわたって…

山の本をつくる

中西健夫 著 A5判 290頁 2800円

長年にわたる山書づくりから本の出来る過程、著者＝岳人との交流、蔵書の行く末などのエピソードをかたる。山と本への思いにあふれた出版人一代記。

フィッツロイ、パイネの両山群が間近に迫るトレッキング

パタゴニア・パイネ＆フィッツロイ山群 トレッキングとイグアスの滝 14日間

出発日～帰着日	旅行代金（大阪発着）
2/12（水）～2/25（火）	￥848,000

パイネ山群ではトーレス・デル・パイネの展望地へ。フィッツロイ山群ではフィッツロイが眼前に迫るロス・トレス湖へのハイキングを楽しみます。旅の後半は世界三大瀑布のひとつイグアスの滝を訪れます。

▲ロス・トレス湖からのフィッツロイ

宗教が交錯する聖地を巡り、花咲くゴラン高原でハイキング

イスラエル・ゴラン高原フラワーハイキングと 聖地エルサレム探訪 9日間

出発日～帰着日	旅行代金（大阪発着）
3/8（土）～3/16（日）	￥428,000

花咲くベストシーズンにガリラヤ湖に3連泊。緑豊かなゴラン高原で計5回のたっぷりハイキング。旅の後半は死海リゾートに宿泊し、悲劇の要塞マサダへ。聖地エルサレムではイエスの最後の日の足跡を巡ります。

▲ゴラン高原の自然保護区を歩く

—◇お知らせ◇——アルパインツアーの新しい割引制度——

「アルパイン・メイト・ポイント」のご案内

4月1日より、海外ツアーにご参加いただくと、次回のご旅行の割引やアウトドアグッズへの交換が可能なポイントが貯まる、「アルパイン・メイト・ポイント」がスタートしました。

◇——アルパイン・メイト・ポイントとは——◇

- ●当社海外ツアーにご参加いただくと、旅行代金の1%にあたるポイントが帰国翌日に自動加算されます。
- ●貯まったポイントは次回の割引やアウトドアグッズへ交換可能。
- ●入会金や年会費、面倒な手続きなどは一切不要です。

「アルパイン・メイト・ポイント」の詳細はお問合せください。

観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員 ボンド保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪 〒550-0003 06-6444-3033
大阪市西区京町堀1-4-3（TCF肥後橋ビル2階）

〈編集後記〉

☆11月16日に長野県松本市の主催で催された「山岳フォーラム」に参加してきました。雪をかぶった常念岳が清々しい秋晴れの日。参加理由は、加藤文太郎の北鎌尾根遭難を脚本にした「山の声」（作：大竹野正典）の朗読劇上演です。2010年は六甲ヒルトップギャラリー、11年は加藤文太郎山の会の招きで浜坂、12年は山と溪谷社主催の涸沢フェスティバルで横尾山荘にて、そして今年は松本からお声が掛かりました。11月末にはようやく大阪で上演です。結果として年１回のイベント。2014年はどうなりますか。

（加藤）

発行日　2013（平成25）年12月10日
発行所　〒530-0015　大阪市北区中崎西1-4-22
梅田東ビル３階　304号室
公益社団法人 日本山岳会関西支部
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp
郵便振替口座　00930-6-55950
発行者　重廣恒夫
編　集　加藤芳樹　野口恒雄　水谷　透
制　作　株式会社　双陽社
大阪市北区堂島2-2-28